検証　「迷ったらC」は本当？

＜「Cが多い」は都市伝説？＞

ICU 入試に関する都市伝説の一つとして、選択肢 C が解答である問題が多いので「もし答えが分からなければ C を選べ」ということがまことしやかにささやかれてきた(らしい)。今回は ICU 入試ではどの選択肢が解答として多いのかを検証してみたい。

＜検証方法＞

ICU は他の大学と同じく、入試問題の解答を公開していないので、今回は筆者の運営する ICU 入試情報サイト、「BUCHO.NET」のオンラインレクチャーの過去 20 年分の解答例(2000 年度～2019 年度)を使用した。教科は英語リーディング、英語リスニング、人文・社会科学(2014 年度まで人文科学)を検証した。自然科学は筆記問題を含むため、また総合教養(リベラルアーツ学習適正)は昨年度まで問題が非公開であったため、今回は検証を行っていない。

＜科目別検証結果＞

・英語リーディング

	A	B	C	D	計
解答数	196	198	208	185	787
割合	24.9%	25.2%	26.4%	23.5%	

英語リーディングは 2000 年から 2019 年の間に計 787 問出題されており、最も多かったのは選択肢 C(26.4%)で、最も少なかったのは D(23.5%)であった。

・英語リスニング

	A	B	C	D	計
解答数	167	184	174	189	714
割合	23.4%	25.8%	24.4%	26.5%	

英語リスニングは過去 20 年間で計 714 問が出題されており、最も解答が多かった選択肢は D(26.5%)で、最も少なかったのは A(23.4%)であった。

・人文・社会科学(2014 年度まで人文科学)

	A	B	C	D	計
解答数	192	200	211	200	803
割合	23.9%	24.9%	26.3%	24.9%	

人文・社会科学は過去 20 年間で 3 教科のうち最も多い 803 問が出題されており、解答として最も多かった選択肢は C(26.3%)、最も少なかったのは A(23.9%)であった。

＜検証結果の考察＞

まず目を引くのは、英語リーディングと人文・社会科学では選択肢 C の解答が最も多かった事だ。出題者心理として、受験者が容易に答えを発見できないよう、A,B,C,D の中では、後半かつ中程の選択肢である C を解答にしたいというものがあるのかも知れない。一方、リスニングでは選択肢 D が最も多く、その割合は今回統計を取った中では最も大きかった(26.5%)。また、リスニングの選択肢 A は最も割合が少ない(23.4%)。ICU 入試のリスニングの各選択肢はリーディングや人文・社会科学と比較すると、選択肢が短く、また内容がシンプルであるため、出題者としては選択肢 A を解答とすることにためらいを感じ、選択肢 D の解答を増やすことで、問題の難度を上げたいという狙いがあるのかも知れない。

＜年度別の最多解答と最少解答のギャップ＞

次に年度ごとに最も解答が多かった選択肢と、最も解答が少なかった選択肢の割合の差(ギャップ)を教科ごとに検証した。一例として 2019 年度の英語リーディングは 36 問のうち、最も解答が多かったのは C の 11 問(30.5%)、最も少なかったのは B の 7 問(19.4%)であった。この場合の最多解答と最少解答のギャップは 30.5%－19.4%＝11.1% となる。このように年度別に最多解答と最少解答のギャップを教科ごとに集計したのが以下の図 1 である。

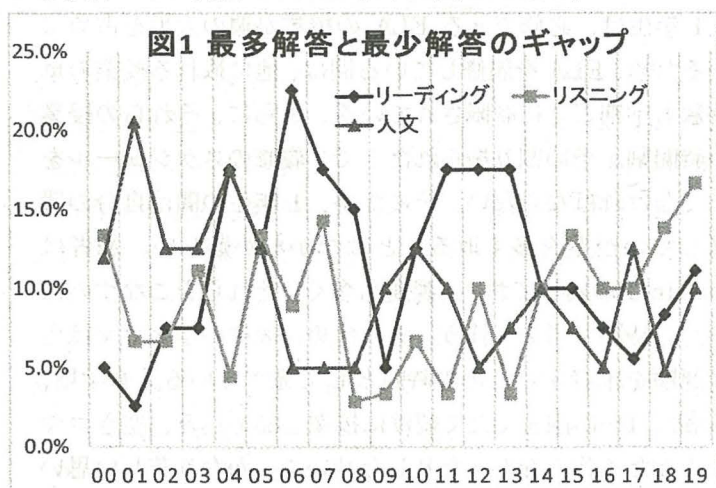

図 1 でみられるように、概ねどの教科も 5%から 15%程度のギャップで推移している様子がうかがえる。過去 20 年間の年度別のギャップを平均すると、英語リーディングが約 11%、英語リスニングが約 9%、人文・社会科学が約 10%であった。つまり、各教科とも特定の選択肢に解答が偏らないように一定の配慮がなされている様子が覗える。一方で、まれに 20%を超えるギャップも計測されているので、プログラム等を用いて各選択肢が均等になるように作問している訳ではないと考えられる。

*ICU OB の筆者が運営する ICU 入試情報サイト、「BUCHO.NET」では、ICU 合格体験記を募集しております(執筆者にはギフトカードを贈呈中!)　【BUCHO】

【https://BUCHO.NET】(「ICU BUCHO」で検索！)

じー・ぴー・えー【Grade Point Average】①各コースAからEの評価を4点から0点までの数値に換算し、それらを平均したもの。留学制度やメジャー申請選択にて一定値を求められる。②勤勉あるいは狭窄度指数。総じて「単位取得への意欲」が数値化されたもの。